

平成26年度 第1回 「宇都宮市子ども・子育て会議」 議事録

1. 日 時 平成26年7月1日(火) 午後3時00分～午後5時00分
2. 場 所 宇都宮市役所 地下1階 災害対策本部室
3. 協 議 (1)「宮っこ子育て・子育て応援プラン」の改定に向けての課題のまとめ
(2)「子ども・子育て支援新制度」の施行に伴う各種基準に関する条例の制定
について
(3)「(仮称)宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」策定に係る「教育・
保育提供区域」の設定及び「確保方策」の考え方について
4. 出席者
【委 員】伊達悦子会長，岡地和男副会長，塩見浩之委員，柳沼淳子委員，君島道夫委員，
栗田幹晴委員，釧持幸子委員，福田清美委員，鈴木友之委員，佐々木佳子委員，
今井政範委員，石川英子委員，國吉真理子委員，今井恭男委員，齋藤宏夫委員
鎌倉三郎委員，倉益章委員，坂本保夫委員，中野謙作委員，加藤邦子委員，
保坂寿委員，立原新委員，芥川一男委員，大橋純子委員，谷越宏美委員，
林昌宏委員

【事 務 局】〔子ども部〕高橋部長，中里次長
〔子ども未来課〕緒方課長，肝付総括主査，高橋主任，大貫主任主事
〔子ども家庭課〕大久保課長，館野補佐，大島室長，溝江係長，根岸係長
〔保育課〕大根田課長，有馬係長，鈴木係長，高桑係長，
鈴木主任，渡邊主事
〔子ども発達センター〕谷田部所長，平石副所長
〔生涯学習課〕大竹課長，吉澤係長
5. 公開・非公開の別 公開
6. 傍聴者数 2名

発言者	内 容
会長	<p>1 開会 会議の公開について決定</p> <p>2 報告 (1)「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」の改定について (事務局説明)</p> <p>質問・確認等はあるか。</p> <p>(質問等なし)</p> <p>(2)平成25年度「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」の進捗状況について (事務局説明)</p>
会長	<p>質問・確認等はあるか。</p> <p>(質問等なし)</p>
会長	<p>3 協議 (1)「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」の改定に向けての課題のまとめ (事務局説明)</p> <p>質問・意見はあるか。</p>
委員	<p>基本施策の「9. 子どもが安全・安心に暮らせる環境整備」のうち、「(2) 交通安全・防犯対策等の子どもの安全を守る取組の推進」についての課題のまとめについて、近年では各地区での交通安全・防犯対策が推進されていると感じているが、課題とは具体的にどのように認識しているのか。</p>
事務局	<p>地域の防犯活動・安全点検については、地域の方のご協力により推進されているがニーズ調査では、地域の防犯活動・安全点検についてまだ不安があるという結果になっているため、詳しい状況を分析しながら取組をさらに進めていくかの検討を行う。</p>

委員	課題のレベルがどの程度なのか、今後の施策の方向性の検討で具体的に示してほしい。
委員	全体的にはそれぞれの課題がよくまとまっていると思う、この後具体的に市民ニーズをどのように施策に反映するかを十分に検討して頂きたい。
会長	市民ニーズなどを踏まえた課題を、今後どのように施策に反映するか。施策への反映はこの後の検討事項ということでよいか。
委員	<p>施策への反映は、この後の議論となる。</p> <p>これまでの取組の評価から問題・課題をとりまとめているので分かりやすい一方で、行政から見た課題と、各委員が地域で活動している立場からの課題認識に差があるのではないかと。課題認識については、より具体的にしていく必要があるのではないかと。例えば、若者の就労支援・引きこもりの問題については、相談体制は整っているようであるが、相談体制等の関係機関の連携だけでは対策は不十分なのではないかと。就労に結びつけるためには、本人に寄り添い伴走するような体制がないと難しいのではないかと。今後、施策の検討を行う際には、さらに問題点の分析をした上で、重点的に取り組むべき課題の解決に向けた、より詳しい過程の提示をお願いしたい。</p>
事務局	本日提示したのは課題のまとめであり、青少年の自立に向けた取組については、社会体験事業やコミュニケーションの機会を持つなどの段階を経ることも重要であると考えている。また、経済状況が厳しい中での就労支援をどのように展開するかも課題である。それらの課題を解決するためには関係機関との連携が必要であるが、委員ご指摘のとおり、課題解決にはその過程を示すことが必要と考えるため、施策を検討する際には必要な情報を提示し、ご議論いただけるようにする。
会長	ニートや引きこもりの対策については、予防的な取組の検討も必要だと考える。キャリア教育の充実などにより、小学校や中学校での不登校を減らすことが、青少年の自立に向けた取組の一環となるようにお願いしたい。
委員	基本施策の「5. すべての子育て家庭への教育・保育サービスの充実」

事務局	<p>について、結婚・子育てを望んだ幼稚園教諭や保育士が、出産に際して就労を継続することがなかなか困難な状況にある。保育士が安心して産休・育休を取得できるよう、代替の保育士を確保する手段として民間が実施している保育士バンクがあるが、行政でもそういったバンクがあるとよい。課題や施策の検討に加えていただきたい。</p>
事務局	<p>保育士の人材バンクの件について、保育所は年度後半になると入所児の増加に伴う保育士の確保が困難な状況であると認識しているため、民間の保育士バンクがある中で、市がどのような取組を行うことがよいか、今後具体的な検討を行う。</p>
委員	<p>課題のまとめはよいが、例えば基本施策の「1. たくましい子どもの育ちと若者の自立支援の充実」の課題のまとめを実現するためには、色々な対策が必要であると考え。それぞれの課題についてどのような施策を立案するのか、その施策を検討する際には、事務局がしっかりとした案を示し、十分な議論を行って有効な施策としていく必要がある。</p> <p>(2)「子ども・子育て支援新制度」の施行に伴う各種基準に関する条例の制定等について</p>
会長	<p>この協議事項に係る、教育・保育部会での検討状況はどうか。</p>
委員	<p>(第1回教育・保育部会報告)</p>
会長	<p>質問・意見はあるか。</p>
委員	<p>保育を必要としている人が多くなっている状況の中で、一時預かり事業の利用率が低いのはなぜか。</p>
事務局	<p>一時預かり事業については、各保育所に保護者が直接申込みことになるが、急な預かりに対して各保育所が保育士の配置状況により預かれない場合もある。そのため、急な預かりについては利用率が低いことが見込まれる。</p>
委員	<p>保育の必要性の下限時間を64時間とした場合、一時預かり事業の受</p>

事務局	<p>入をしっかりと対応して行くべきなのではないか。確実な一時預かり事業を確保したうえで下限時間を64時間とするべきなのではないか。</p> <p>一時預かり事業については、平成26年3月18日の「子ども・子育て会議」で、子ども・子育て支援新制度導入後の「量の見込み」を提示したところであり、市民のニーズが高くなっている状況である。その確保方策については、現在行っている施設への意向調査で一時預かり事業の実施の意向も確認中であり、一時預かり事業を実施したい保育所や幼稚園等の意向を踏まえ、ニーズを十分に確保できるように検討している。</p>
委員	<p>放課後児童健全育成事業の基準案について、支援の単位を概ね40人以下とするとあるが、各子どもの家の現状には違いがあるのではないか。利用している人数が多い・少ないなど各子どもの家の現状に即した検討が必要なのではないか、また指導員の確保は市が行うべきなのではないか。</p>
事務局	<p>40人以上のクラブにおいては、基準案の実施による影響が大きいと考えている。指導員の確保策については、子どもの家連合会などと連携して、新たな確保方策を検討していかなくてはならないと考えている。各子どもの家の状況は異なることから、今後必要に応じて、子どもの家の運営方法についても併せて検討を行っていく。</p>
委員	<p>各子どもの家によって実態が異なるため、市はすべての子どもの家で同水準のサービスを受けられるように、例えば指導員を十分に確保できるようにしてほしい。</p> <p>(3)「(仮称)宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」策定に係る「教育・保育提供区域」の設定及び「確保方策」の考え方について</p>
会長	<p>この協議事項に係る、教育・保育部会での検討状況はどうか。</p>
委員	<p>(第2回教育・保育部会報告)</p>
会長	<p>質問・意見はあるか。</p> <p>(質問等なし)</p>

<p>会長</p>	<p>4 その他</p> <p>質問・意見はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>教育・保育部会での議論の中で、保育所における1歳児の保育士の配置基準については、今後検討すると事務局から説明があった件について、現在の検討状況はどうなっているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>子ども・子育て支援新制度を導入する目的である、保育の質の確保の視点から今後検討を進めたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>5 閉会</p> <p>以上で、第1回宇都宮市子ども・子育て会議を終了します。</p>